

## J S Q C規格の翻訳に関する提案書

|                         |   |
|-------------------------|---|
| 対象となるJSQC規格の番号・名称       | JSQC-Std 41-001: 2016 品質管理教育の指針   |
| 翻訳規格で使用する言語             | 英語  |
| 翻訳規格の利用者                | (1) 総合的品質管理 (TQM) を海外拠点への展開しようとしている日本企業<br>(2) 海外の技術者を対象とするTQMの研修を行っている組織・人<br>(3) TQMを導入・実践している海外企業  |
| 翻訳のねらい                  | TQMの主要な活動要素のうち、日常管理、方針管理、小集団改善活動については既に英訳規格の開発・制定が進んでいる。他方、これらの活動を支える人材を育成するための品質管理教育については、具体的な指針が示されていない。結果として、必要な教育が行われなかったり、組織の状況に合わせてその計画・実施・見直しが適切に行われなかったりする場合も少なくない。JSQC-Std 41-001は、品質管理教育として実施することが望ましい内容および組織の状況に応じて品質管理教育の計画・実施・見直しを行う方法に関して、学会として統一的な見解を示すことを目的に制定された規格であり、本翻訳規格の制定により、海外拠点でもこのような誤解・混乱を防ぎ、TQMの普及・促進を図れる。 |
| 翻訳によって期待される効果           | (1) 総合的品質管理 (TQM) を海外拠点への展開しようとしている日本企業の担当者が、海外拠点に品質管理教育を説明するための資料としてそのまま活用できるため、海外拠点におけるTQMの実践が容易となる。<br>(2) 海外の技術者を対象とするTQMの研修を行っている組織・人が、テキストとしてそのまま活用できる。<br>(3) ISO規格の提案を行う場合の基礎資料として活用できる。  |
| 制定によって影響を受けられると思われる組織・人 | (1) 品質管理に関する国際規格、地域規格、国家規格を発行している組織<br>(2) 品質管理に関する国際的な資格認定を行っている組織   |
| 制定までのおおよそのスケジュール        | (1) 2020年5月まで：専門家による下訳の作成<br>(2) 2020年8月まで：翻訳委員会による翻訳案の作成<br>(3) 2020年10月まで：ネイティブスピーカーによるレビューおよび修正<br>(4) 2020年11月：標準委員会での審議・検討<br>(5) 2020年12月：理事会での承認・発行  |
| 費用に関する計画                | (1) 専門家による下訳の費用(約50万円)は、研究発表のための翻訳と位置づけ、中央大学奨学寄付金より支出する。<br>(2) 翻訳委員会の会合費(約1万円)は、標準委員会の予算より支出する。<br>(3) 翻訳委員会委員への謝金・交通費、ネイティブスピーカーへの謝金は支払わない。貢献のあった人の名前を翻訳規格に明記する。  |
| 翻訳委員会候補者                | (1) 平林良人 (テクノファ)<br>(2) 安藤之裕 (技術士)<br>(3) 中條武志 (中央大学)<br>(4) 山田秀 (慶応義塾大学)   |
| 著作権                     | 翻訳規格の著作権は日本品質管理学会に帰属する。   |
| 提案委員会・研究会・部会名           | 標準委員会   |